

# 共同募金における運動性の再生に向けて 参加と協働による「新たなたすけあい」の創造



おかげさまで 70周年



## 70周年を迎えた共同募金

赤い羽根共同募金は今年で70周年を迎えます。

戦後間もない昭和22年に、当初は

戦後復興の一助となる国民たすけあい運動として戦災孤児などの生活困窮者の支援や福祉施設を支援する役割を担い、その後、時代の変遷と

もに子どもの遊び場、障がい者や高齢者の支援活動、そして現在のよう

な多様な地域福祉活動を支える募金として柔軟に役割を拡大・変化させてきました。

「共同募金」は社会福祉法第112条に「都道府県の区域を単位として、毎年1回、厚生労働大臣の定める期間内に限ってあまねく行う寄附金の募集であつて、その区域内における地域福祉の推進を図るため、その寄附金をその区域内において社会福祉事業、更生保護事業その他の社会福祉を目的とする事業を経営する者（国及び地方公共団体を除く）に配分することを目的とする」と定義されています。

共同募金運動は自治会・町内会、民生・児童委員、企業や学校関係者など、年間200万人といわれるボランティアの方々に支えられ、69年間の累計額は9千億円を超える実績を有し、自分の町を良くする運動として展開されています。

## 共同募金の運動性の再生

中央共同募金会企画・推進委員会は、共同募金運動創設70年を迎えた平成28年2月、「参加と協働による『新たなたすけあい』の創造」共同募金における運動性の再生」と題する答申を行いました。

70年答申では、現在の共同募金の課題として、元来共同募金が持つていた「運動性」が長い歴史の中で失われつつあること、その運動性を再生することが共同募金の発展と地域福祉の推進につながることが述べられています。

70年答申における「共同募金の運動性」としては、①運動を通じて地域課題の解決を図る②地域住民の参加と、地域課題や活動への理解を促進する③助成や募金を通じた福祉活動団体の基盤づくりの3つが挙げられています。

答申内容を具体化し、明確な目標をもつて取り組みを進めるために、推進方策では市町村共同募金委員会（以下、「市町村共募」）の重点目標

### 募金額減少比較

※平成7年度をピークに全国的に募金額の減少が続いている状況

年度	全国の募金額推移	岩手県の募金額推移
①平成7年募金実績	265億7,935万1,029円	4億9,149万1,735円
②平成27年募金実績	184億6,273万7,660円	3億7,724万2,830円
①-②（減少額）	81億1,661万3,369円	1億1,424万8,905円

※平成27年度の岩手県内の募金実績額は前年度に比較して1,403,581円、0.4%の減。1世帯当たり募金額は、728円で島根県と並んで全国1位。戸別募金が約71%を占め、続いて法人募金が10.2%。寄せられた募金の約7割が各市町村における地域福祉活動財源として活用されています。



釜石シーウェイブスRFC 街頭募金

# 新しい募手法の開拓①

岩手県共同募金会は赤い羽根アクションプランにおいて（平成26年～平成30年度）に「新たな募金手法を積極的に取り入れた募金の増額」を掲げ、新たな募金手法の開拓・普及を図りながら、募金増額に取り組んでいます。

うち寄付つき商品は、企業にとって本業の販売促進のメリット及び社会貢献としてのイメージアップに繋がるとともに、寄付金は民間団体等の地域課題解決の財源になり、県内の地域住民のための福祉活動事業や災害見舞金、災害支援事業等に使われます。



菊池常務執行役員（右）から県共募長山会長（左）に贈呈

## 12月13日まで赤い羽根共同募金寄付つきランチを実施

ふれあいランド岩手1階「ふれあいレストラン雲の信号」では、10月6日から「あつたかいてプロジェクト」寄付つき

# 寄付つき商品の開発

## 株式会社ベルジョイス様から寄付金贈呈

岩手県共同募金会は赤い羽根アクションプランにおいて（平成26年～平成30年度）に「新たな

募金手法を積極的に取り入れた募金の増額」を掲げ、新たな募金手法の開拓・普及を図りながら、募金増額に取り組んでいます。

10月3日、ふれあいランド岩手にて、「あつたかいてプロジェクト」が開催され、株式会社ベルジョイスの菊池常務執行役員から県共募の長山会長に寄付金が贈呈されました。

本年6、7月の2ヶ月間、ベルジョイス県内全店舗において1本2円の寄付つき飲料（サントリーノ）を販売いただき、442、880円（売上総数221、440本）が赤い羽根募金に寄付されました。



ふれあいレストラン雲の信号



陸前高田市の街頭募金風景

として、運動性の再生による共同募金運動の活性化と、多様な人材の参画による住民が主体となつた共同募金の展開が挙げられています。具体的には、社会福祉協議会や民生委員児童委員協議会との連携を基盤としながら、市町村共募への多様な人材の参画を進めるとともに、地域住民が主体となった募金運動の展開を実現することとしています。また、都道府県共同募金会の重点

## 岩手県の共同募金の現状

平成7年度から様々な要因により全国的に募金実績が減少し、新しい寄付のあり方が問われています。

このほか新たな募金方法として、赤い羽根自動販売機の普及や寄付つき商品の開発に取り組み、寄付つき飲料、寄付つきランチの販売、ボールペン、寄付つきワイン、寄付つき飲料、寄付つきランチの販売、

12月13日までの期間中に、ふれあい定食（季節のご飯・汁物、漬物等／750円）を注文いたしました。1食につき20円が赤い羽根共同募金に寄付されます。

本年度は平成28年度重点事業に掲げる「70年答申」による推進方策に連動しながら、県共募及び市町村共同における具体的な取組の進捗状況の調査・評価を行うとともに、「地域で社会の生活課題に取り組む市町村への積極的な取組」の進捗状況の調査・評価を行います。

本年度は平成28年度重点事業に掲げる「70年答申」による推進方策に連動しながら、県共募及び市町村共同における具体的な取組の進捗状況の調査・評価を行います。

目標としては、①運動性の再生に向けた市町村共募の支援②都道府県共同募自体の機能強化が必要とされ、運動性をもつた展開を実現するため、新たな地域課題の解決に向けた助成と自ら行う募金の活性化を図ることとしています。

平成7年度から様々な要因により課題解決支援事業として、1月～3月の間、期間延長募金に取り組んできました。今年度は全国一斉に平成29年3月まで、募金を行うことになります。

岩手県共同募金会（以下、「県共募」）では、募金減少と東日本大震災で被災して募金活動を行うことができない主に沿岸市町村共募のため、平成25年度に期間延長募金を行い、平成26年度からは全国共通助成テーマ「地域から孤立をなくそう」みんなが社会の一員として包み支えあうしくみづくり」に沿った生活課題解決支援事業として、1月～3月の間、期間延長募金に取り組んできました。今年度は全国一斉に平成29年3月まで、募金を行うことになります。

## 赤い羽根自販機 197台設置

**協力企業は11社  
設置台数は197台**

企業の社会貢献活動につながる赤い羽根自動販売機（以下、「自販機」）は、飲料を購入の際に、その売り上げの一部が赤い羽根共同募金に寄付される仕組みです。

県内の赤い羽根自販機を活用した平成28年10月現在の実績は、協力企業（県共募と覚書を締結している企業）11社、設置台数197台、寄付実績は1,535,838円となっています。

県内の市町村共募（各市町村社協内）では、一層の普及・拡大を図るために、法人や企業、福祉施設などへ出向き、設置協力を要請しています。

### 災害支援対応の自販機設置

奥州市共同募金委員会は社協合併後から、赤い羽根自販機設置促進に取り組み、県内でも高い寄付実績を

奥州市共同募金委員会は社協合併後から、赤い羽根自販機設置促進に取り組み、県内でも高い寄付実績を

奥州市水沢区の羽田地区センター（奥州市社会福祉協議会水沢区地域福祉推進協議会羽田支部・羽田ボランティアセンター）は、今年9月30日に赤い羽根自販機を玄関前に設置しました。

この自販機は、災害時にカギを開けて設定を変更することにより、中の飲料を提供できる備蓄の役割のある災害支援対応販売機です。

今野俊宏センター長は「時代にマッチした自販機で、センター利用者の反応は思いのほか上々です。元々地元民の結びつきが強いうえ、羽田町災害緊急避難所に指定されていることもあります。設置については住民からの要望も高かったように思います」と強調しています。

設置した赤い羽根自販機には「この自動販売機は災害停電時においても飲料供給ができます」と書かれた充電池搭載「災害救護ベンダー」のステッカーが貼られています。



赤い羽根共同募金災害支援自動販売機が設置された羽田地区センター。右はじが今野俊宏センター長



災害救援ベンダー「災害停電時においても飲料供給ができます」のステッカー

示しています。

設置箇所は市総合福祉センターや高齢者福祉施設、図書館、信用金庫、パチンコ店など多岐にわたっています。

## 「赤い羽根自動販売機」設置による募金運動を推進

**協力企業は11社  
設置台数は197台**

設置箇所は市総合福祉センターや高齢者福祉施設、図書館、信用金庫、パチンコ店など多岐にわたっています。

地域から孤立をなくそう～みんなが社会の一員として包み支えあうしくみづくり～

### 平成29年度「生活課題解決支援事業」助成団体・事業

●解決したい課題と具体的な活動内容●

#### NPO)サンガ岩手（盛岡市）

##### 被災地における高齢者の孤立感や不安の解消

被災地における高齢者に対するこころのケアと住民交流会活動←（大槌町）

- 傾聴ボランティアの実施
- こころの相談室の開設
- 住民交流会の実施
- ものづくり教室の開催

#### 平成28年度

##### あったかいわてプロジェクト～地域みまもり応援募金～

住民に身近な生活課題に取り組む団体を支援

岩手県共同募金会では、平成29年1月1日から3月31日までの間、生活課題解決支援事業「あったかいわてプロジェクト～地域みまもり応援募金～」を実施します。

同プロジェクトは、県共募が公募した「生活課題解決支援事業」で採択された団体に、寄付者が団体及び事業を指定して寄付する募金です。

平成28年度の募金実績は、平成29年度の「生活課題解決支援事業」に取り組む左記3団体に助成されます。皆さまのご協力をお願いします。

#### NPO)みやこ自立サポートセンター（宮古市）

##### 社会的自立に困難を抱える引きこもり等の若者の孤立防止

引きこもり等の若者に対する居場所の提供と中間的就労のための事業←（宮古市）

- 週2回の居場所設置
- 支援員の働きかけでフリートークやゲーム・交流会等の場を設ける（週1回）
- 自立に向けた体慣らしとして「さり織り」や農業を体験する（週1回）
- 交流会、レクリエーションの実施（年4回）

#### 福)釜石市社会福祉協議会（釜石市）

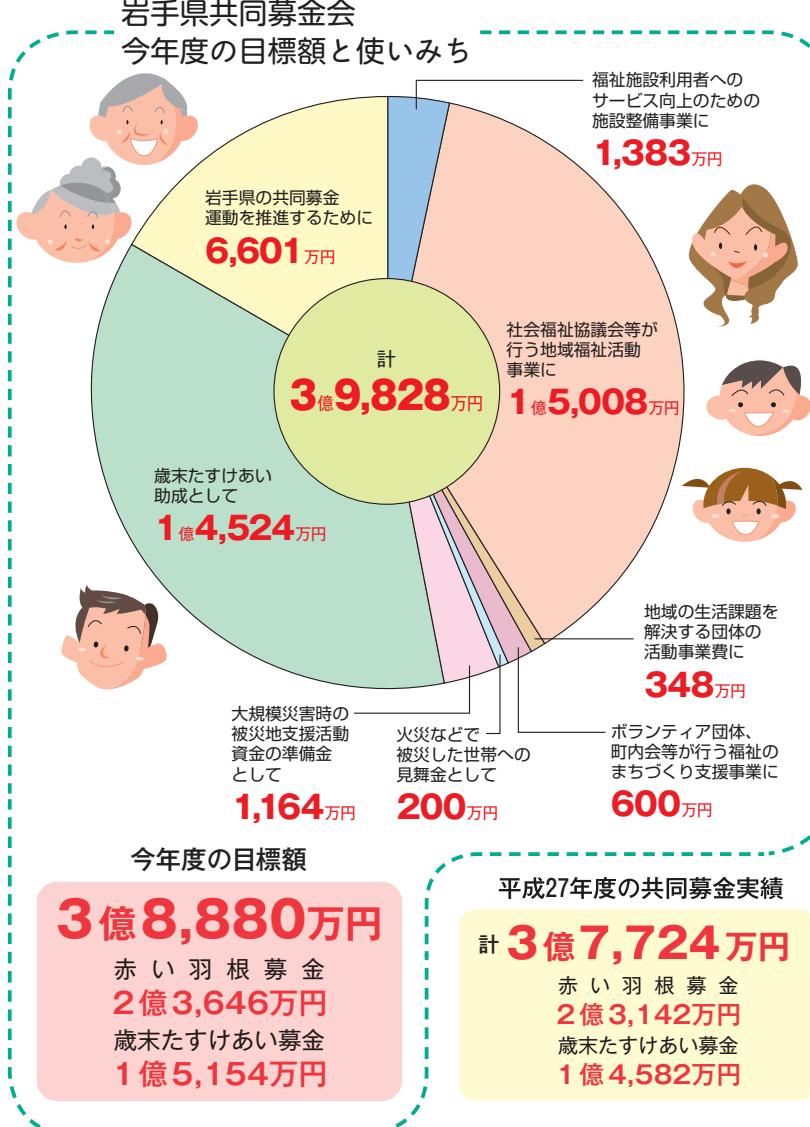
##### 多角的に支援を行う地域福祉活動団体への活動支援

～地域課題に向き合う～世話やき人応援事業←（釜石市）

- 心のケアやコミュニティづくりを実施する団体に対して、活動費の支援（上限50,000円）を行う
- 本事業を通じて社協と実施団体との連携を強化する

地域から孤立をなくす活動

東日本大震災  
被災者支援事業

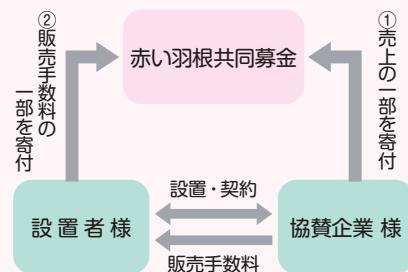


## 赤い羽根自動販売機による寄付のしくみ

岩手県共同募金会では次の飲料メーカー及び自動販売機メーカーのご協力をいただき、「赤い羽根募金自動販売機」の設置を推進しています。

### 赤い羽根自動販売機設置協力企業

- NPO 法人ハートフル福祉募金
- 株式会社伊藤園
- ダイドードリンコ株式会社
- みちのくコカ・コーラボトリング株式会社
- みちのくキャンティーン株式会社
- ナショナル・ベンディング株式会社
- 三陸自販機
- サントリービバレッジサービス株式会社
- 株式会社ミチノク
- 株式会社ジャパンビバレッジ東北
- キリンビバレッジバリューベンダー株式会社



\*販売手数料からの募金は、協力企業を通じて赤い羽根共同募金に寄付されます。

\*岩手県共同募金会は、寄付金に対する領収書を発行しています。

詳しくは県共同募金会または市町村共同募金委員会（各社会福祉協議会）にお問い合わせください。

## 共同募金は被災地支援にも役立っています

共同募金会では、災害救助法が適用される災害に際し、被災地支援のための災害義援金の募集や、被災地の災害ボランティアセンター活動を支える災害支援制度を実施しています。

### 岩手県台風10号大雨等災害義援金の募集

平成28年8月30日に岩手県太平洋沿岸部に上陸した台風10号により、岩手県内では岩泉町をはじめ5市4町3村で死傷者等の人的被害、家屋の流失、床上浸水・床下浸水等の被害が発生、災害救助法が適用されました。

岩手県共同募金会では、この災害による被災者を支援することを目的に義援金の募集を行っています。

募集期間は平成28年9月5日（月）から平成29年3月31日（金）までです。

### 義援金受入口座

金融機関	支店名	口座番号	名義等
岩手銀行	本店 (普)2241853		社会福祉法人岩手県共同募金会 岩手県台風10号大雨等災害義援金
ゆうちょ銀行	00130-2-387497		岩手県共同募金会 台風10号大雨等災害義援金

### 現金書留による義援金の送付

〒020-0831 岩手県盛岡市三本柳8-1-3

社会福祉法人岩手県共同募金会

※現金書留用封筒に「救助用郵便」と明記してください。

郵便料金が免除されます。

とりまとめた義援金は、岩手県、日本赤十字社岩手県支部、岩手県共同募金会等で構成される義援金配分委員会で決定し、被災者に配分されます。

### 問い合わせ先

社会福祉法人岩手県共同募金会

〒020-0831 岩手県盛岡市三本柳8-1-3

TEL: 019-637-8889 FAX: 019-637-9712

## 赤い羽根共同募金による災害支援制度

赤い羽根共同募金の一部は、毎年「災害準備金」として積み立てられ、大規模災害の発生時に、被災地の災害ボランティアセンターの設置・活動資金として役立てられます。

この災害準備金は、平成23年に発生した東日本大震災や平成28年熊本地震、今回の岩手県台風10号大雨災害での被災地ボランティア活動を資金面から支えています。



岩手県共同募金会では、全国障害者スポーツ大会希望郷いわて開催会場にも「岩手県台風10号大雨等災害義援金」のブースを設けました



岩泉町災害ボランティアセンターの様子